

## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2) 不利を克服するレジリエントな学校

比嘉 康則

とよなか都市創造研究所 研究員

### <目次>

1. 本章の内容
2. 方法
3. 分析
4. 結果のまとめ

### 1. 本章の内容

前章でみたように、豊中市においても家庭の社会経済的背景（SES）による学力面での格差がうかがえる。もちろん、そのような実態を確認することは大切だ。しかし、それだけでは十分ではない。格差の縮小に向けてどのような政策や実践が求められるのか、ヒントを得るための検討を進める必要がある。

実際、全国学力・学習状況調査データの分析を進めてみると、家庭 SES が厳しいものの教科の正答率が相対的に高い児童生徒も存在する。そして、そのような児童生徒が多い学校、いわばレジリエントな学校<sup>1</sup>も存在する。では、そのような学校にはどんな特徴があるのだろうか。その特徴を明らかにできれば、学力格差の縮小に向けて行政・学校が何に取り組めばよい

のか、示唆が得られるだろう。

そこで本章ではまず、先行研究を整理し、学力面での家庭 SES の不利を克服しているレジリエントな学校を析出する方法を確認する。そのうえで、全国学力・学習状況調査データにもとづく分析を行い、不利を克服している児童生徒が多い学校の特定と、その特徴の分析を行う。そして最後に結果をまとめる。

### 2. 方法

「効果のある学校論」と呼ばれる一連の研究群がある（川口・前馬 2007、志水 2009、志水編 2009 など）。これらの研究では、不利な環境のもとにある児童生徒の学力の底支えに成功している「効果のある学校」を量的調査により抽出し、その特徴を量的・質的調査により検討し

<sup>1</sup> 「レジリエントな学校」という表現は、お茶の水女子大学編（2023）を参考にした。レジリエント（resilient）には、

「柔軟性がある」「回復力がある」といった意味がある。

## 調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究

ている。

先行研究では、「効果のある学校」をどのように特定しているのか。基本的な手続きは、以下のとおりである（志水 2009：78）。

- ①ある学力テストについて、平均点よりやや低いラインの「基準点」を設定する。
- ②子どもたちを、何らかの属性や質問紙の回答によって、いくつかの集団にグルーピングする。
- ③グループごとの、「基準点」に対する「通過率」を求める。
- ④すべてのグループについて、「通過率」がある水準を上回っている場合、その学校を「効果のある学校」と判定する。

今回の分析でも、同様の手続きをとることにする。具体的には、以下のとおりである。

- ①全国学力・学習状況調査の国語と算数・数

学を合算した場合の正答率について、全国の公立学校の平均正答率をやや下回るラインを「基準点」に設定する。各年度・各学年の基準点は図表 4-1 のとおりである。

- ②「学校全体」「家にある本の冊数が 25 冊以下の児童生徒」「非通塾の児童生徒」について、上述の基準点をクリアしている児童生徒の割合を学校ごとに算出する。
- ③期待される「通過率」を、先行研究（志水 2009 など）を参考に 6 割以上に設定する。
- ④「学校全体」「家にある本の冊数が 25 冊以下の児童生徒」「非通塾の児童生徒」の通過率がすべて 6 割以上の学校を、学力面での家庭 SES の不利を克服している学校とみなす。

以上のような手続きで特定された学校について、児童生徒を対象としたアンケートをもとに、レジリエントな学校の特徴を明らかにしたい。

図表 4-1 基準点の設定

	小 6		中 3	
	全国平均	基準点	全国平均	基準点
R3 (2021)	67.5%	60.0%	60.9%	53.0%
R4 (2022)	64.4%	56.0%	60.2%	53.0%
R5 (2023)	64.9%	56.0%	60.0%	53.0%

### 3. 分析

#### 3-1 レジリエントな学校の特定

上述のような手続きをふんだ結果、レジリエントな学校の数には図表 4-2 のようになった。3 年連続でレジリエントな学校と判定されたところは、小学校で 8 校、中学校で 2 校であった。継続的にレジリエントな学校と判定される学校は多くないが、一定程度存在する。

では、レジリエントな学校はどのような地域で見られやすいのだろうか。令和 5 年(2023 年)の各校の就学援助率をもとに、学校を 3 つのグループにわけた。就学援助率が低い学校（低いほうから約 3 分の 1）、高い学校（高いほうから約 3 分の 1）、それ以外の中程度の学校である。就学援助率が高いほうから順に地域 SES1、地域 SES2、地域 SES3 とすると、各グループでのレジリエントな学校の数には図表 4-3 と 4-4 の

## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)

ようになった。

地域 SES にゆとりがあるところほど、レジリエントな学校として判定されやすい傾向にあることがわかる。3年連続でレジリエントな学校と判定されたところは、小学校の場合は地域

SES1 で1校、地域 SES2 で1校、地域 SES3 で6校であり、中学校の場合は地域 SES1 で0校、地域 SES2 で1校、地域 SES3 で1校であった。

図表 4-2 レジリエントな学校の数

	小学校	中学校
R3 (2021)	18校	7校
R4 (2022)	12校	10校
R5 (2023)	15校	6校

図表 4-3 地域 SES 別のレジリエントな学校の数 (小学校)

	地域 SES1	地域 SES2	地域 SES3
R3 (2021)	2校	4校	12校
R4 (2022)	1校	2校	9校
R5 (2023)	3校	4校	8校

図表 4-4 地域 SES 別のレジリエントな学校の数 (中学校)

	地域 SES1	地域 SES2	地域 SES3
R3 (2021)	1校	3校	3校
R4 (2022)	1校	4校	5校
R5 (2023)	0校	3校	3校

### 3-2 レジリエントな小学校の特徴

次に、児童生徒を対象としたアンケート調査を用いて、レジリエントな学校の特徴を明らかにする。

その際、地域 SES の視点を加味する。上述のように、レジリエントな学校は地域の社会的な背景が厳しいところでは判定されにくく、ゆとりがある地域では判定されやすい。そのような状況下ですべての学校を一括して分析した場合、レジリエントな学校の特徴は地域 SES が高い学校の特徴を色濃く反映してしま

うだろう。学力面での家庭 SES の不利の克服につながりやすい取組みは、学校がおかれた文脈により異なる可能性がある。

本節では小学校を、次節では中学校を分析する。用いるデータは、小学校は令和5年度(2023年度)、中学校は令和4年度(2022年度)のものである。できればいずれも同じ年のデータが望ましいが、令和5年度は中学校の地域 SES1 でレジリエントな学校と判定されたところがあった。一方、コロナ禍の状況や ICT 機器の利用などで、学校での指導のあり方は年々変化

## 調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究

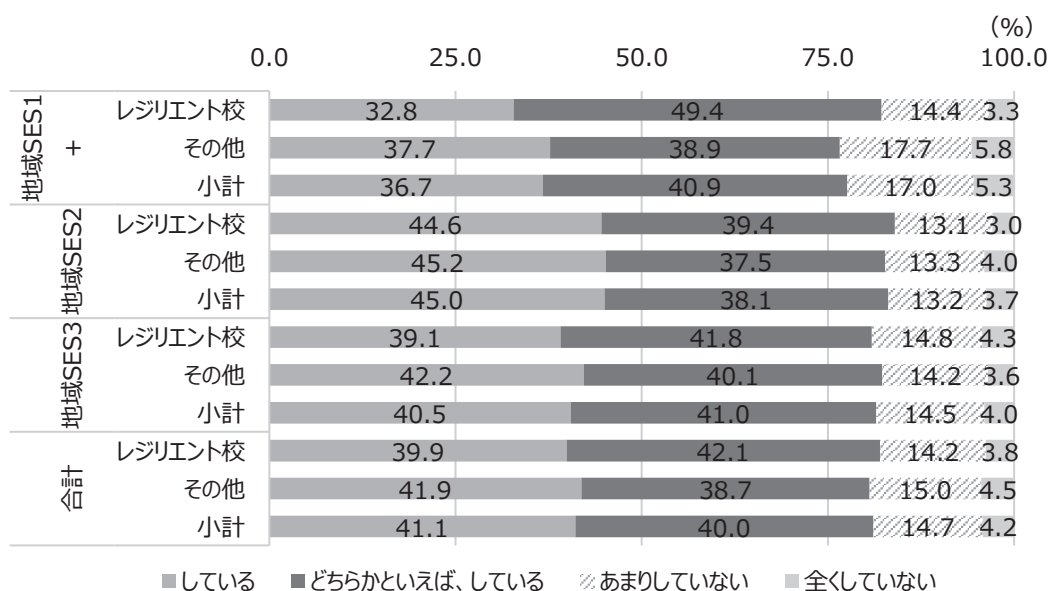
していることを考えると、最新のデータでの分析が望ましい。以上のような条件を総合的にふまえ、小学校は令和5年度、中学校は令和4年度と別々の年のデータを用いている。

以下では、地域SES、学校のレジリエンスの有無、アンケートの各設問のあいだの三重クロス集計を行う。検討する設問は、生活習慣、学校環境、主体的・対話的で深い学び、ICT機器利用、読書に関するものである。すべての集計結果を見るのは煩雑なため、カイ二乗検定

で統計的な有意差が見られたものを中心に報告する。グラフについた印はすべて、「\*\*\*」は0.1%水準、「\*\*」は1%水準、「\*」は5%水準、「+」印は10%水準で有意な差があったことを示す。

### (1) 生活習慣

まず、生活習慣について。就寝時間（図表4-5）は、地域SES1でレジリエント校の児童のほうが寝る時間が安定的な傾向にある。



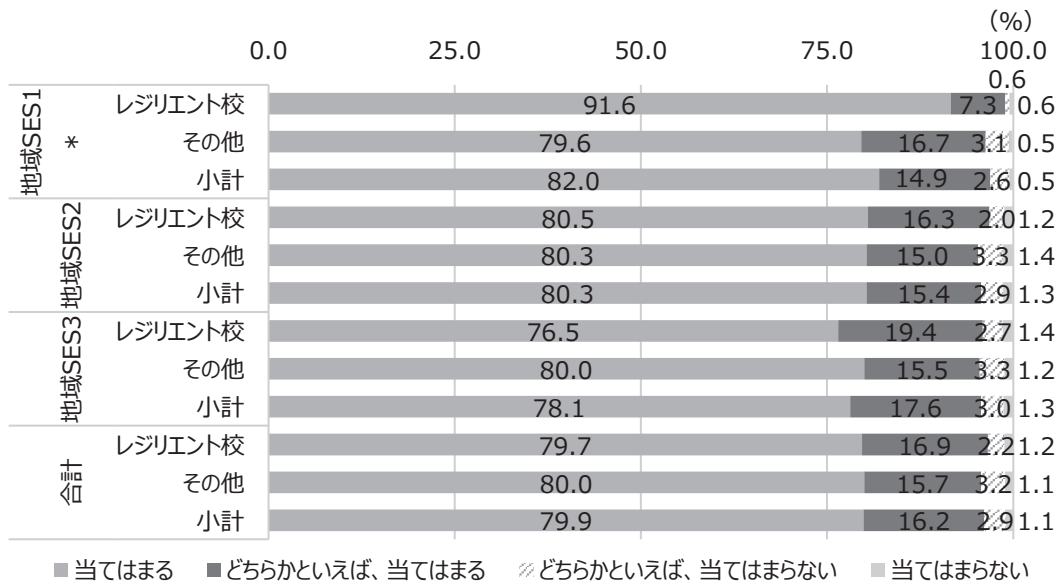
図表4-5 毎日、同じくらいの時刻に寝ている (R5・小学校)

### (2) 学校環境

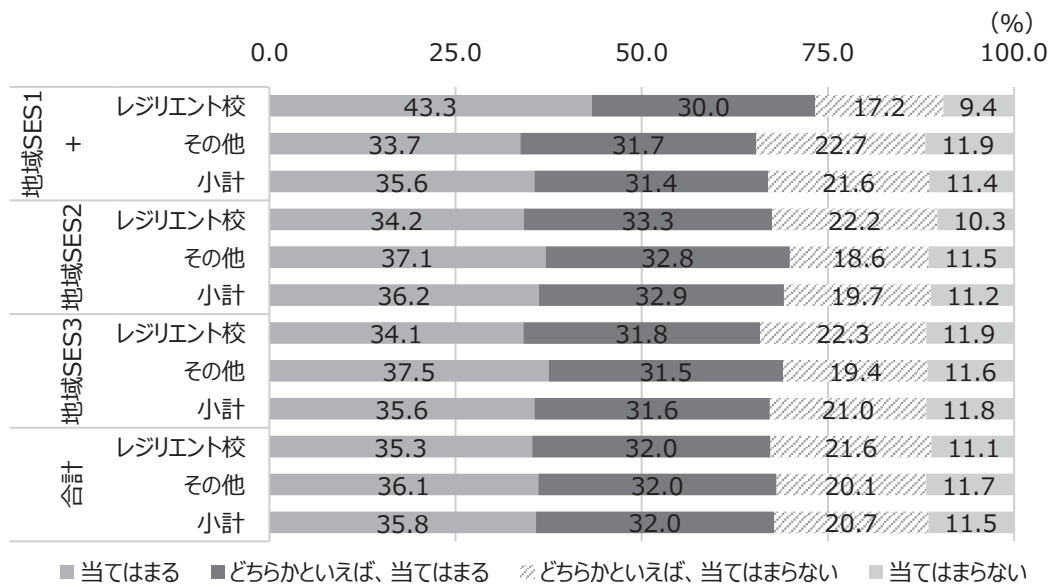
反いじめ規範（図表4-6）については、地域SES1でレジリエント校のほうが、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する児童がより多い。困ったときの先生

などへの相談しやすさ（図表4-7）についても、地域SES1ではレジリエント校のほうが、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答する児童がより多い。

## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)



図表4-6 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う (R5・小学校)



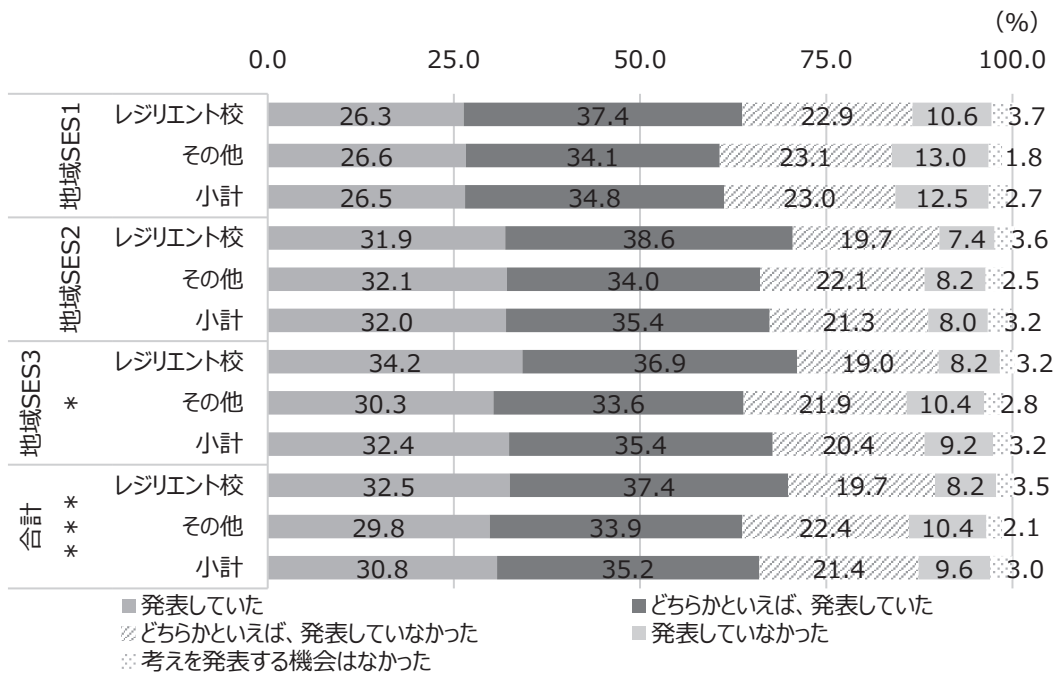
図表4-7 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる (R5・小学校)

### (3) 主体的・対話的で深い学び

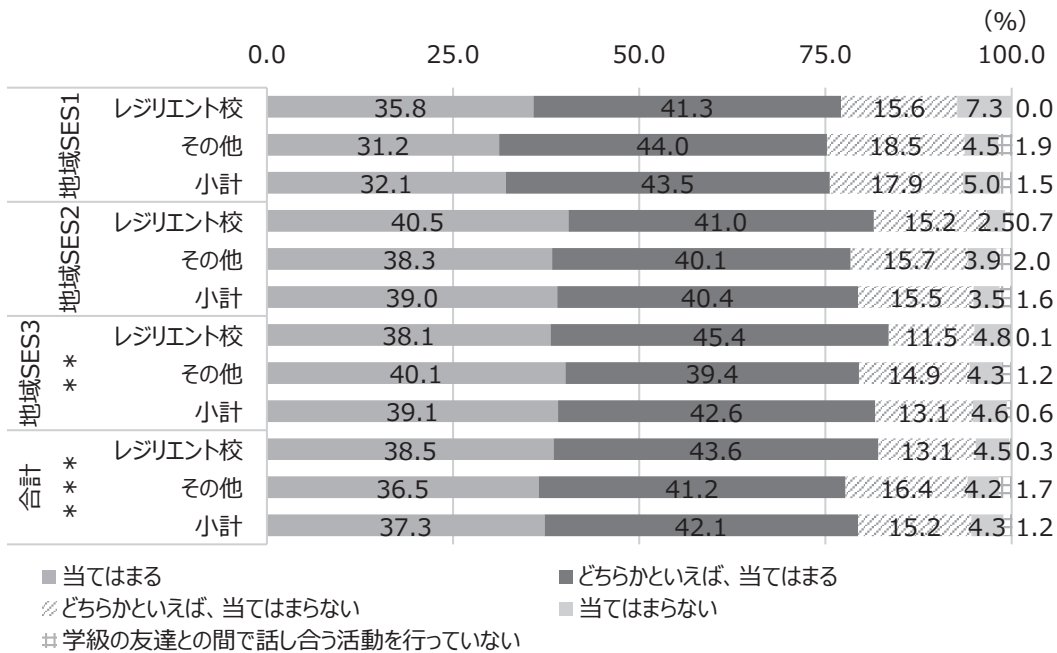
発表の工夫 (図表4-8) については、地域SES3のみで有意差が見られた。レジリエント校の児童のほうが、発表の際に資料・文章・話の組立てなどを工夫していると回答する傾向に

ある。話し合い活動 (図表4-9) についても、地域SES3のみで有意差が見られた。レジリエント校の児童のほうが、話し合い活動を通じて自分の考えを広げたり深めたりすると回答する傾向にある。

調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究



図表 4-8 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか (R5・小学校)



図表 4-9 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか (R5・小学校)

(4) ICT 機器

ICT 機器の利用頻度 (図表 4-10) は、地域 SES2 と地域 SES3 で有意差が見られた。地域

SES2 では、レジリエント校の児童は、5 年生までに受けた授業での ICT 機器の利用頻度が多いと回答する傾向にある。一方、地域 SES3



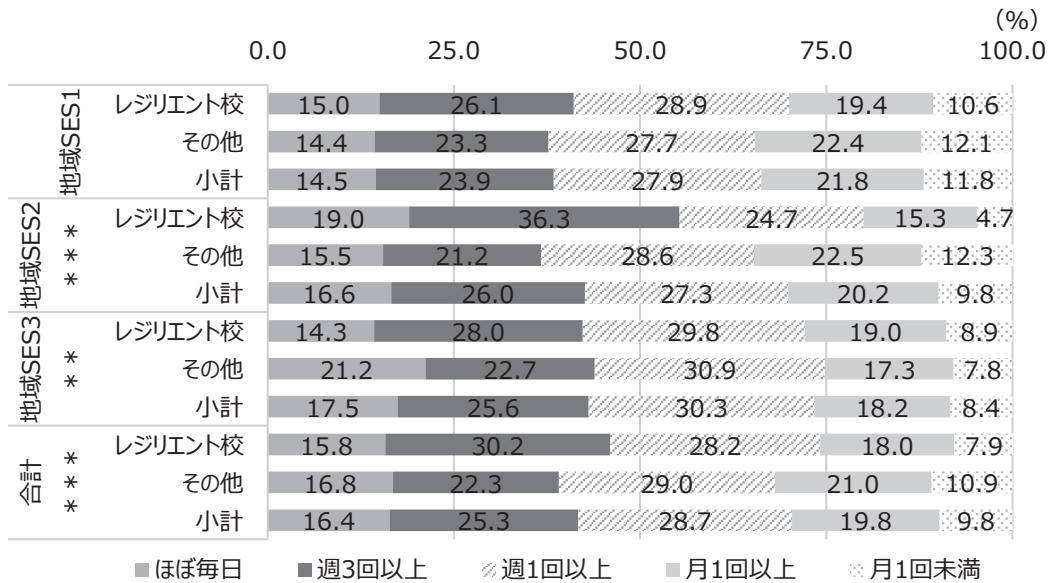
## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)

では、レジリエント校の児童はICT 機器を「ほぼ毎日」使うと回答する割合がそれ以外の学校に比べ低い。

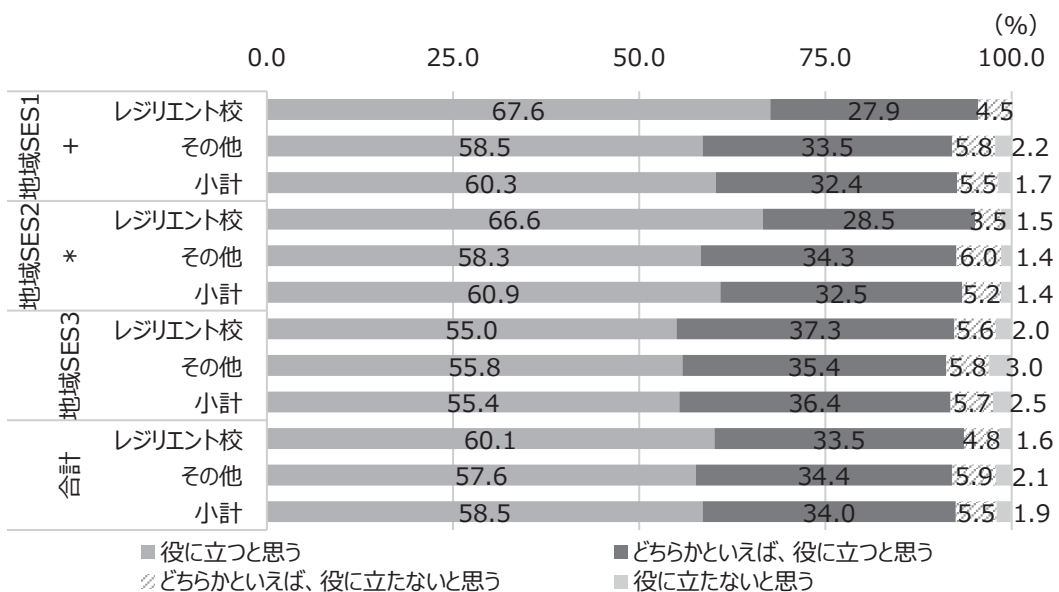
ICT 機器の有用感（図表4-11）については、地域SES1 と地域SES2 で有意差が見られた。レジリエント校の児童のほうが、有用感が強い

傾向にある。

家庭学習も含めたICT 機器の学習利用（図表4-12）については、地域SES2 で有意差が見られた。レジリエント校の児童のほうが、ICT 機器を学習に利用する時間が長いと回答する傾向にある。

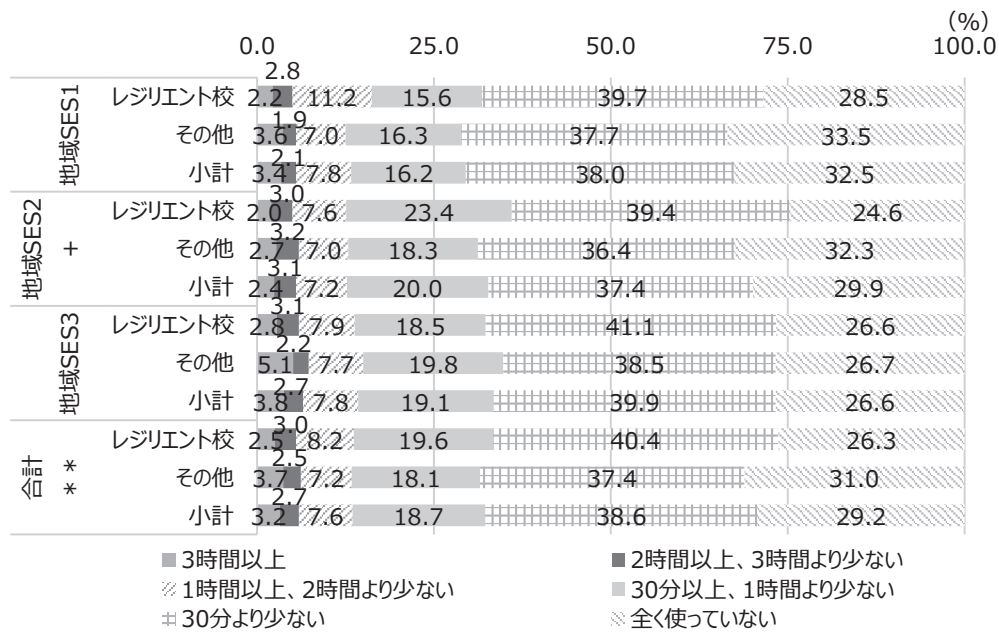


図表4-10 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT 機器を、どの程度使用しましたか (R5・小学生)



図表4-11 学習の中でPC・タブレットなどのICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか (R5・小学生)

調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究

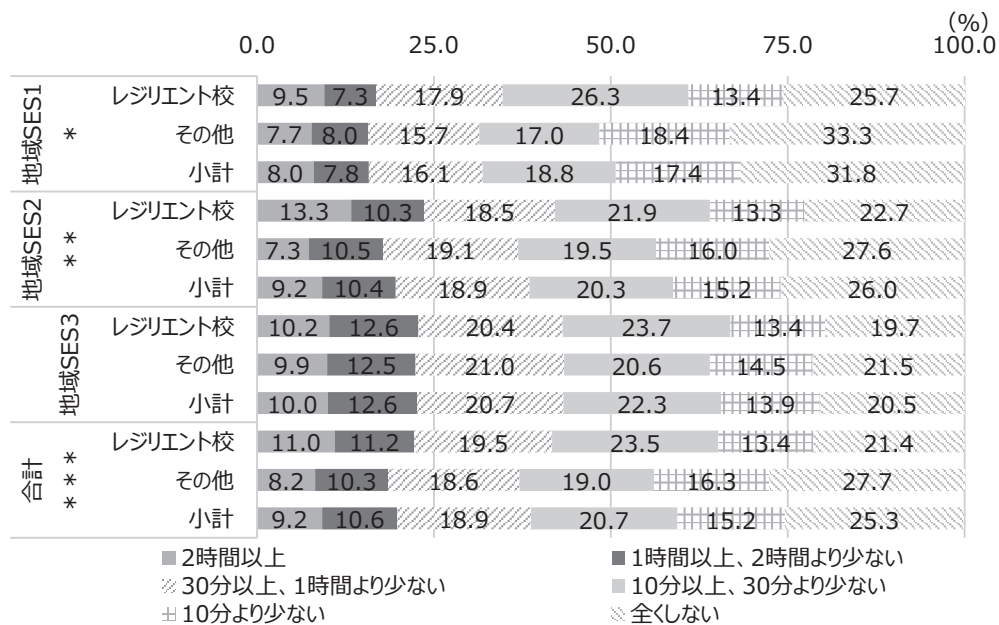


図表 4-12 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（R5・小学生）

(5) 読書

読書時間（図表 4-13）については、地域SES1と地域SES2で有意差が見られ、レジリエント校の児童のほうが、読書をしていると回答する傾向にある。図書館利用頻度（図表

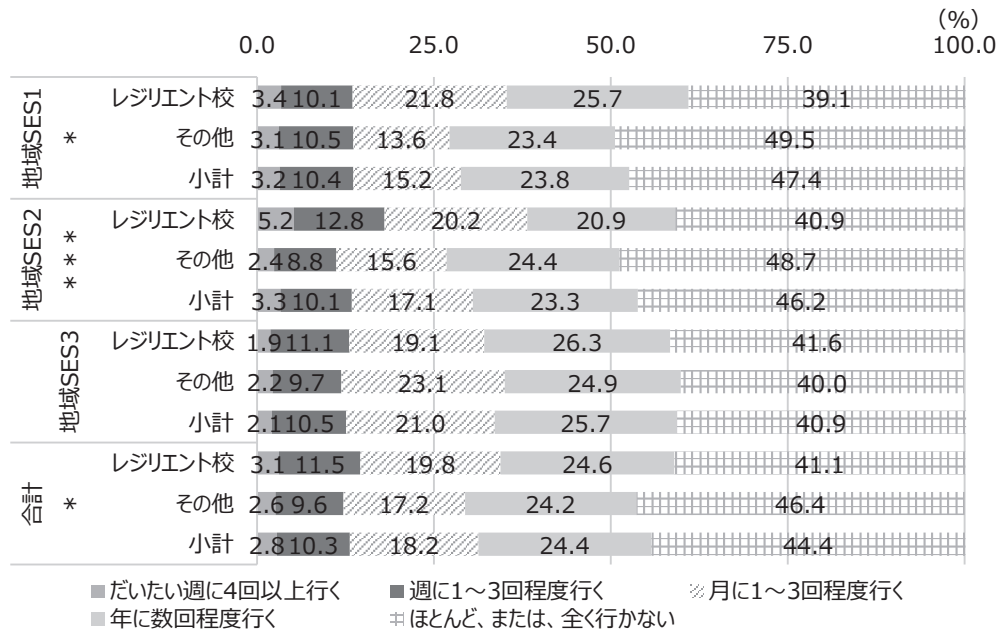
4-14）についても、地域SES1と地域SES2で有意差が見られ、レジリエント校の児童のほうが、図書館をより利用していると回答する傾向にある。



図表 4-13 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（R5・小学生）



## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)



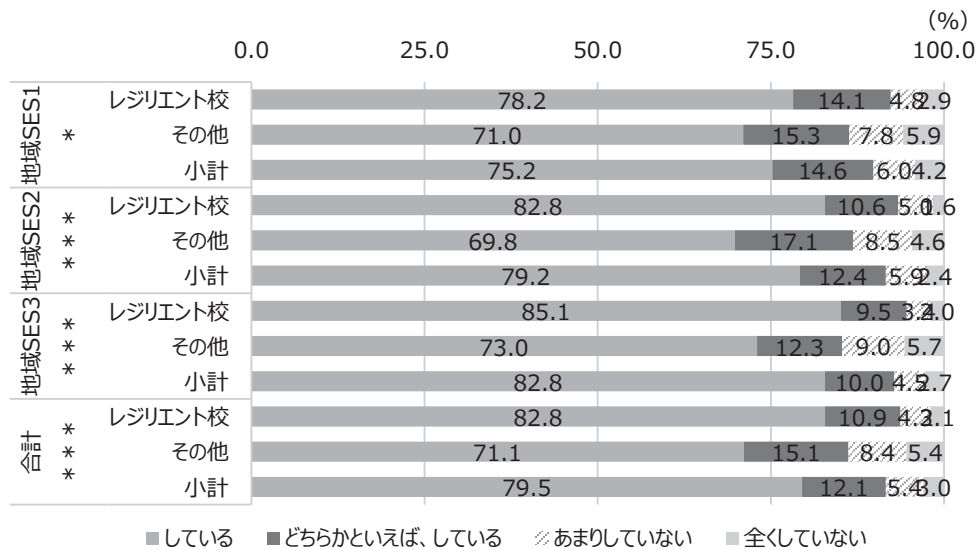
図表4-14 休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか (R5・小学生)

### 3-3 レジリエントな中学校の特徴

#### (1) 生活習慣

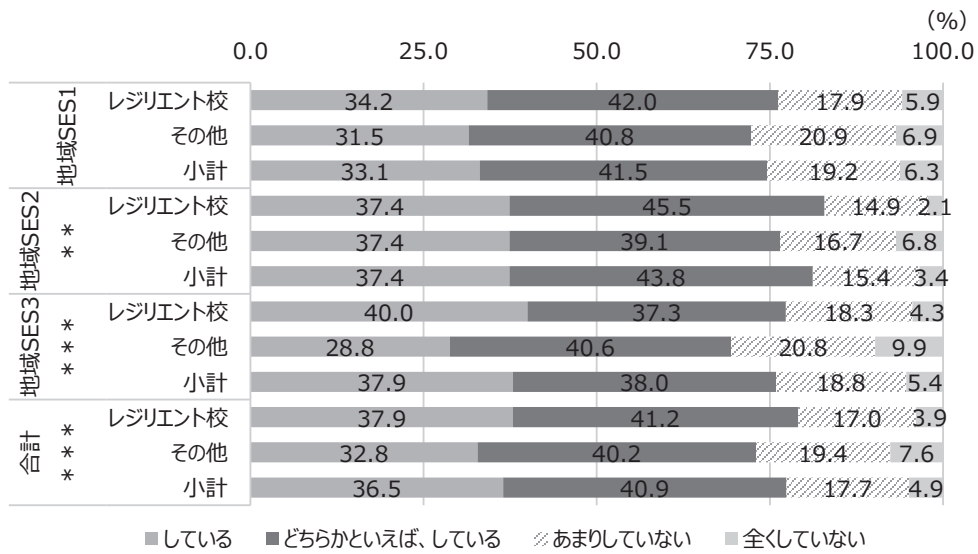
続けて、中学校の分析に移る。朝食（図表4-15）については、すべての地域SESで有意差が見られる。レジリエント校の生徒のほうが朝食を毎日食べる傾向にある。就寝時間（図表4-16）については、地域SES2と地域SES3で

有意差が見られる。レジリエント校の生徒のほうが、就寝時間が決まっている傾向にある。グラフは省略するが、テレビゲームの時間やスマートフォンの使用時間についても、すべての地域SESの学校で、レジリエント校のほうがそれらの時間が短い傾向が見られた。



図表4-15 朝食を毎日食べている (R4・中学生)

調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究

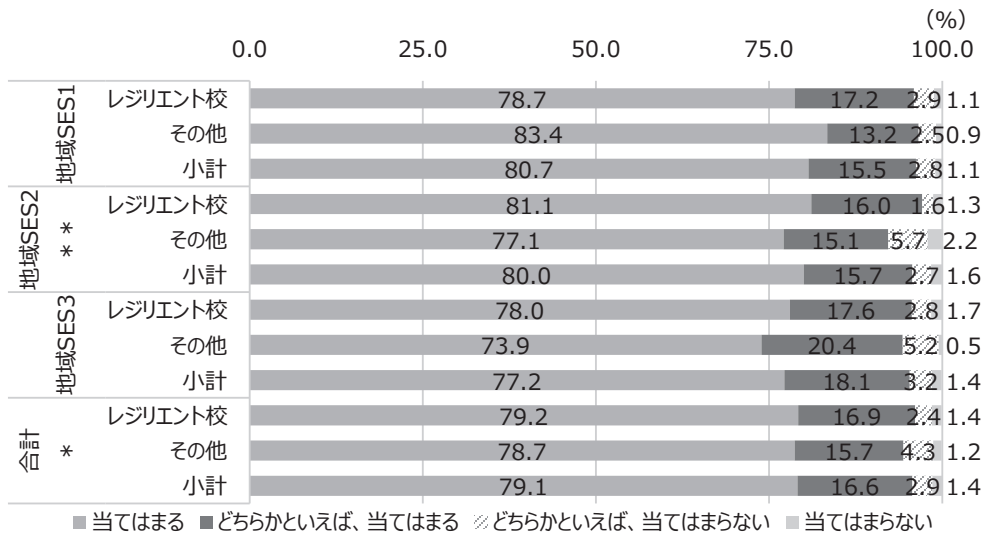


図表4-16 毎日、同じくらいの時刻に寝ている (R4・中学生)

(2) 学校環境

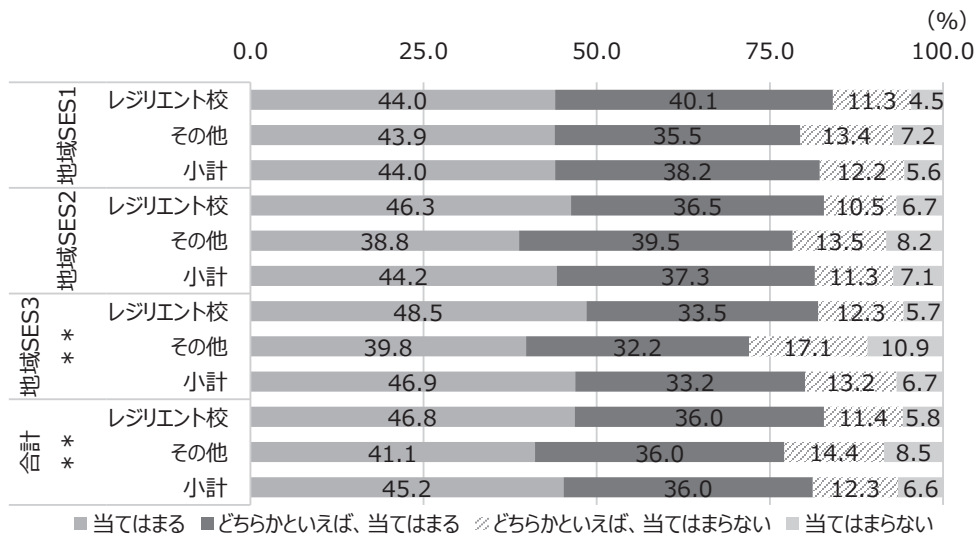
反いじめ規範 (図表4-17) については、地域SES2で有意差が見られ、レジリエント校の生徒は「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する割合が高い。学校の楽しさ (図表4-18) については、地域

SES3で有意差が見られ、レジリエント校の生徒は「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する割合が高い。グラフは省略するが、友だちと協力するのが楽しい割合についても、同様の傾向が見られた。



図表4-17 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う (R4・中学生)

## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)

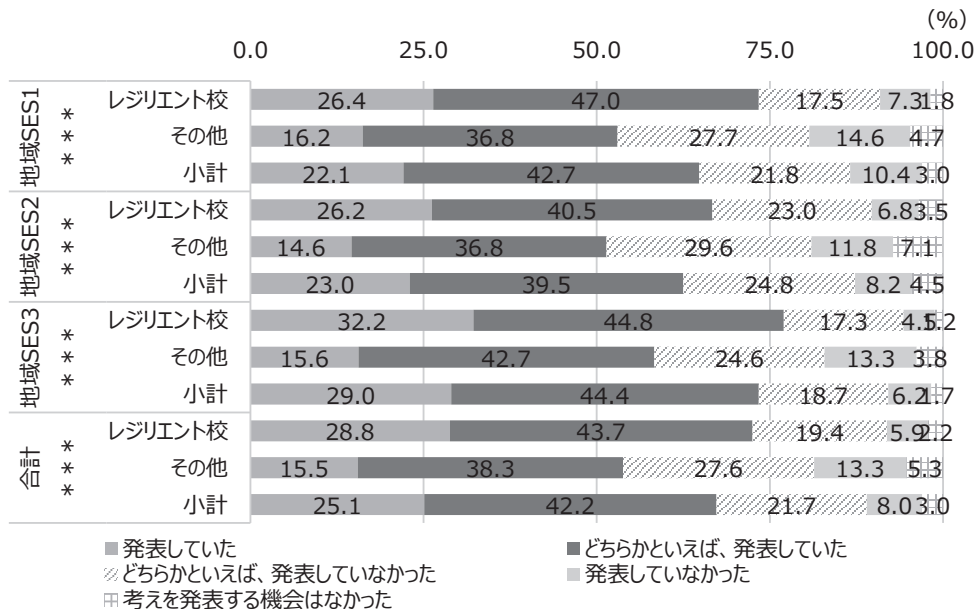


図表4-18 学校に行くのは楽しいと思う (R4・中学生)

### (3) 主体的・対話的で深い学び

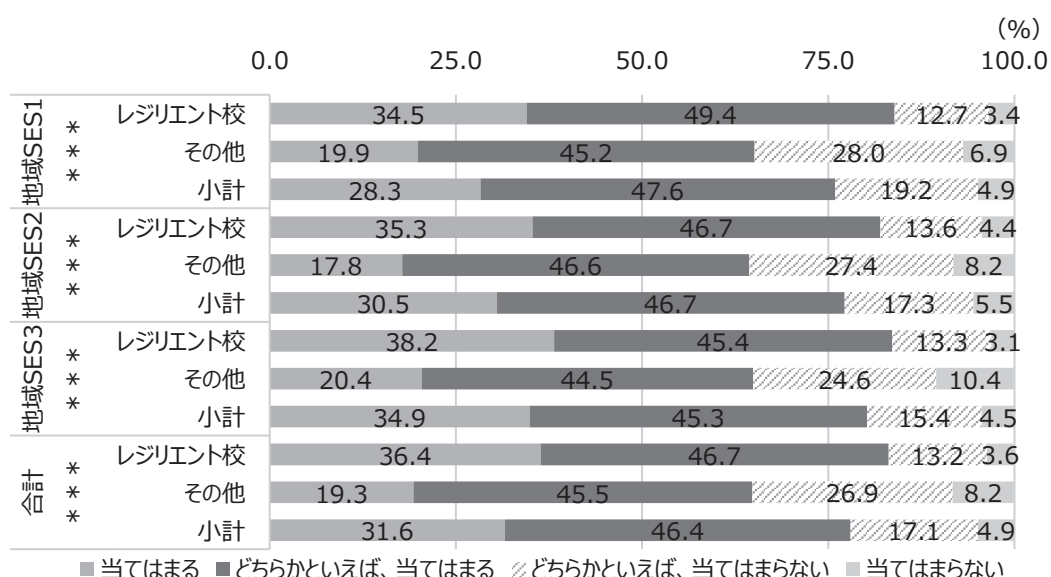
発表の工夫 (図表4-19)、課題解決への主体的取組み (図表4-20)、話し合い活動 (図表4-21) については、すべての地域SESで、レジリエント校の生徒のほうが、それらの活動を行っているという傾向にあった。グラフは省略す

るが、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」「授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた」でも同様の傾向が見られた。

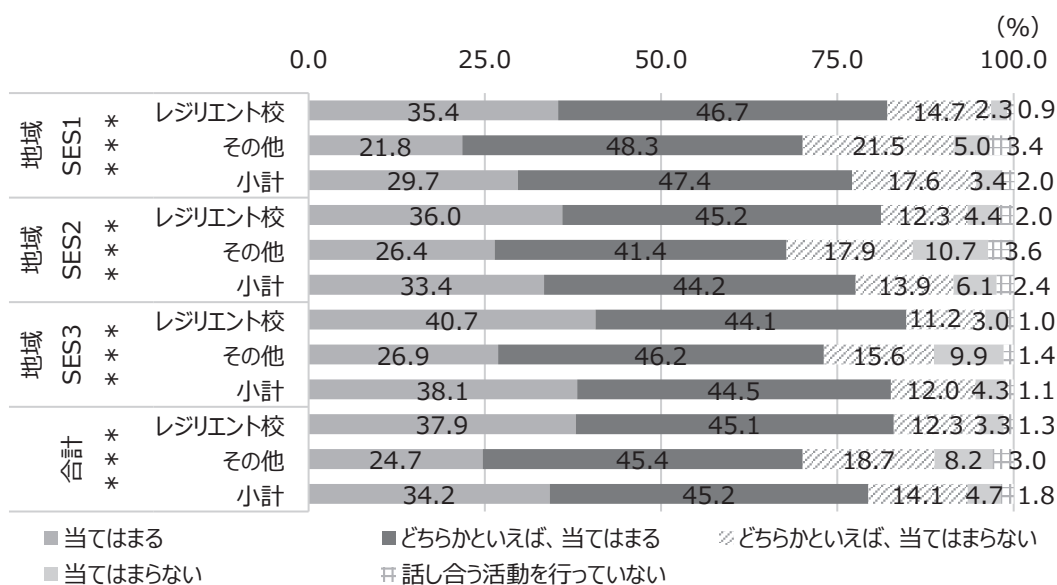


図表4-19 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか (R4・中学生)

調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究



図表4-20 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取組んでいた (R4・中学生)



図表4-21 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか (R4・中学生)

(4) ICT 機器

授業での ICT 機器利用の頻度 (図表 4-22) については、すべての地域 SES で有意差が見られた。レジリエント校の生徒は、中学 1・2 年時の ICT 機器の利用が高頻度でも低頻度でもなく、週 1 回以上の中頻度だったと回答する割合が最も高くなっている。グラフは省略する

が、家庭学習も含めた ICT 機器の学習利用についても、レジリエント校の生徒では利用が中頻度だったと回答する傾向が見られた。

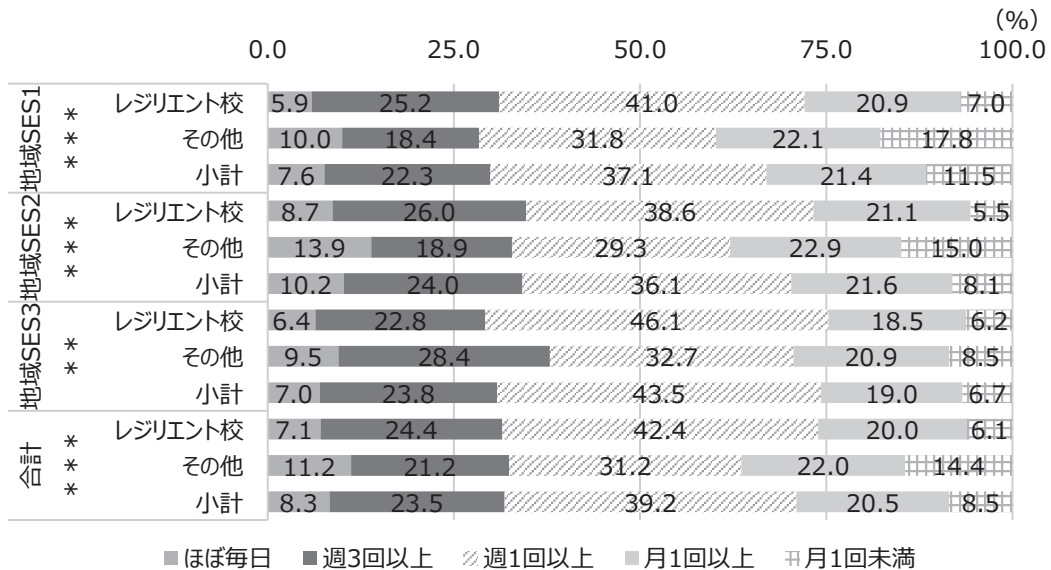
発表場面での ICT 機器利用 (図表 4-23) については、すべての地域 SES で有意差が見られた。レジリエント校の生徒のほうが、発表場面での ICT 機器の利用頻度は高かったと回答

## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)

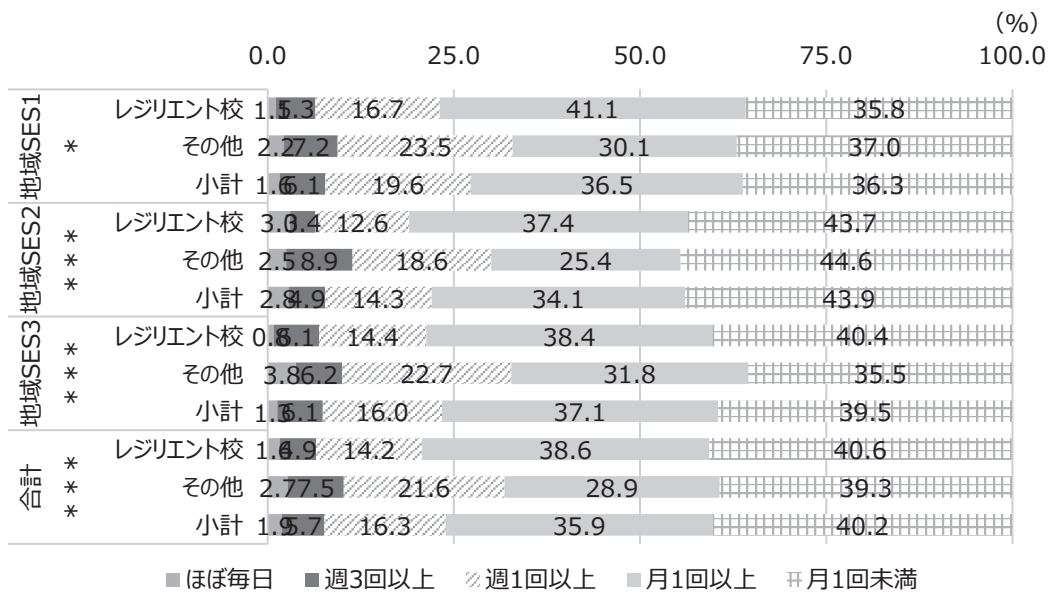
する割合が低く、中頻度だったと回答する割合が高くなっている。グラフは省略するが、話し合い活動でのICT機器利用についても同様の傾向が見られた。

ただ、今回は令和4年度(2022年度)の中3の調査結果を分析しており、その時点での中学

1・2年時は、ICT機器の活用が市内の公立校で本格的にはじまる前後の時期にあたる。ICT機器の活用に学校側も生徒側もより馴染んだと思われる現在は状況が変わっている可能性があり、今回の分析結果には留意が必要である。



図表4-22 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度利用しましたか (R4・中学生)

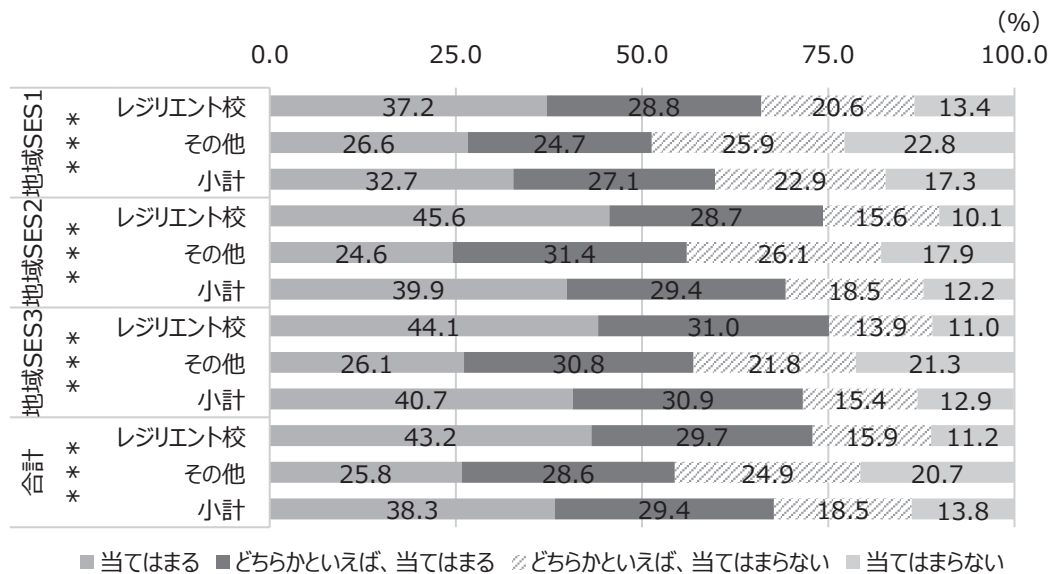


図表4-23 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットのICT機器を、どの程度使っていますか (R4・中学生)

(5) 読書

「読書は好きですか」という質問については(図表 4-24)、すべての地域 SES で有意差が見

られる。地域 SES を問わず、レジリエント校の生徒のほうが読書が好きだと回答する傾向にある。



図表 4-24 読書は好きですか (R4・中学生)

4. 結果のまとめ

本章では、学力面での家庭 SES の不利を克服しているレジリエントな学校について分析した。以下に主な結果をまとめる。

まず、いくつかの学校をレジリエントな学校として特定することができた。ただし、小中学校ともに、社会経済的な背景にゆとりがある地域にあるほどレジリエントな学校と特定されやすい傾向があった。先行研究によると、地方にくらべ都市部では、地域の社会経済的背景が厳しいところにある学校が「効果のある学校」に判定されにくいという(志水 2009)。今回の分析結果も、都市部の傾向を反映していると考えられる。

次に、地域 SES ごとに、レジリエントな学校の特徴を明らかにした。小中学校でそれぞれ次のような結果になった。

〈小学校〉

- 【生活習慣】特に地域 SES が厳しい小学校で、レジリエント校は就寝時間が安定的な児童がより多い。
- 【学校環境】特に地域 SES が厳しい小学校で、レジリエント校は反いじめ規範が強い児童がより多く、学校の先生などに相談しやすい雰囲気を感じている児童がより多い。
- 【主体的・対話的で深い学び】特に地域 SES にゆとりがある小学校で、レジリエント校は主体的・対話的で深い学びに積極的な児童がより多い。
- 【ICT 機器】特に地域 SES が中程度の小学校で、レジリエント校は授業での ICT 機器の利用が積極的な児童がより多い。
- 【読書】地域 SES が厳しい小学校と中程度の小学校で、レジリエント校は読書習慣がある児童がより多い。



## 第4章 全国学力・学習状況調査データの分析 (2)

### 〈中学校〉

- **【生活習慣】** すべての地域 SES の中学校で、レジリエント校は生活習慣が安定的・規律的な生徒が多い。
- **【学校環境】** 特に地域 SES が中程度のレジリエント校は、反いじめ規範が強い生徒が多い。地域 SES にゆとりがあるレジリエント校は、学校に行くのを楽しんでいる生徒が多い。
- **【主体的・対話的で深い学び】** すべての地域 SES の中学校で、レジリエント校は主体的・対話的で深い学びに積極的に取り組んでいると回答する生徒が多い。
- **【ICT 機器】** すべての地域 SES の中学校で、レジリエント校は ICT 機器の利用頻度が中程度だと回答する生徒が多い。
- **【読書】** すべての地域 SES の中学校で、レジリエント校は読書が好きな生徒が多い。

レジリエントな学校の特徴について、いくつか補足しておく。第1に、生活習慣について。レジリエント校は生活習慣が安定的な児童生徒が多い傾向にあった。特に小学校では、地域 SES が厳しい学校でそのような傾向が見られた。安定的な生活習慣の形成が、学力を底支えする基盤になっていると考えられる。

第2に、学校環境について。レジリエント校は、反いじめ規範が強い児童生徒が多い傾向や、先生などに相談しやすいと感じる子どもたちが

多い傾向が見られた。生徒指導と学習指導が相互に支え合う関係にある可能性がうかがえる。

第3に、ICT 機器の活用について。レジリエントな中学校では、ICT 機器の利用が中頻度だと回答する生徒が多かった。ICT 機器の使い方やタイミングが重要なかもしれない。ただ、今回分析したのは、令和2年度～3年度(2020年度～2021年度)のICT機器の利用状況をたずねたアンケートである。現在では状況が変化している可能性もあり、分析結果には留意が必要である。

次年度以降も同様の分析を継続的に積み重ね、レジリエントな学校に安定的に見られる特徴を見出していくことにしたい。また、レジリエントな学校の特徴に関する知見を学校での実践に還元し、その結果を量的・質的な調査によりさらに検討していくことも考えられる。今後の課題としたい。

### 【参考文献】

- 川口俊明・前馬優策, 2007, 「学力格差を縮小する学校——『効果のある学校』の経年分析に向けて」『教育社会学研究』80: 187-205.
- お茶の水女子大学編, 2023, 『保護者に対する調査の結果を活用した専門的な分析』令和4年度文部科学省委託事業「学力調査を活用した専門的な分析課題に関する調査研究」研究成果報告書.
- 志水宏吉, 2009, 「階層差を克服する学校効果——『効果のある学校』論からの分析」Benesse 教育研究開発センター編『研究所報』52: 76-88.
- 志水宏吉編, 2009, 『「力のある学校」の探求』大阪大学出版会.